

聞くこと 2

必要な情報を絞り込めない

全 … 学級全体に対する指導や支援

個 … 個人に対する指導や支援

目的意識を持って聞いていない場合

①英語を聞く前に、登場人物や話の内容について予想させる。全

音声教材の英語を聞かせる際に、写真やイラストを見せて、登場人物はどのような人か、どのような場面で話しているかなどを予想させ、聞かせる内容が児童にとって身近なものになるようにする。「予想が合っているか確かめるために聞いてみよう」と言葉掛けをし、聞くことに目的意識を持たせる。また、聞かせる内容を児童にとって身近なものにするために、自分と比較して考えさせる時間を設けることなども考えられる。

②目的を持って聞く場面を設定する。全

絵本や歌、チャンツを聞かせる際に、ただ聞かせるのではなく、目的を持って聞かせることが重要である。例えば、「どんな動物が出てくるか、よく聞いてみよう」などと課題を設定してから聞かせることが考えられる。

③ポイントを絞って聞かせる。全

聞き取ってほしい語句や表現などのポイントを示してから、音声教材、教員の話す英語を聞かせ、聞き取ったことから話の概要をつかめるようにする。

話題や内容が理解できていない場合

①英語を聞く前に、場面や話題を理解させる。全

単元の導入時など、音声教材の英語を聞かせる際に、話題が何かつかめない児童がいることも考えられる。音声教材の英語を聞かせる前に、教員やALTが児童と英語でやり取りを行い、場面や話題を理解させるようにする。その際、話の内容に関する写真やイラストを示すことで、内容理解の助けになるようにする。

②何について話していたかを確認する。全

英語を聞かせた後に、内容について、児童とやり取りをしながら確認する。例えば、夏休みの思い出に関する内容であれば、“Where did he go?”や“What did he eat?”などと児童に尋ね、何について話していたか学級で共有する。その後、再度英語を聞かせることで、児童は何を聞き取れば良いか分かった上で聞くことができる。

③聞き取れたことをペアやグループで共有する。全・個

英語を聞かせた後に、何が聞き取れたか、どんな話をしていたかなどペアやグループで確認させる。友達と共有することで、お互いに補いながら話の内容を把握することができる。話の内容がおおむね分かった状態で再度英語を聞かせ、一人でも必要な情報を絞り込めるようにする。